

I 学習の様子

【課題の設定】 5月

昨年までの先輩たちの探究結果から、若年層の認知度を上げ意識を高めることが重要であることが分かっている。そこで、若年層の意識を高めるための方法を考え話し合った結果、温暖化による影響についての危機感を持ってもらうことが効果的なのではないかという仮説を立て、取り組みを行った。

【情報の収集】 6月

「温暖化による影響で最も困ること」について、北海道庁で357名にアンケート調査を実施した。また、北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン推進課の方からゼロカーボン北海道に係る道民意識調査の結果について、ゼロカーボンを意識しないままであることで起こりうる地球の危機的状況、これまで行われているゼロカーボンの取り組みなどについて説明いただき、理解を深めた。

【整理・分析】 7月

アンケート調査の整理・分析結果から、海面上昇・異常気象の増加・生態系の変化が危機感を持ってもらうための内容としてふさわしいことを理解した。幼児向け、少年向け、青年向けそれぞれに効果的な方法を話し合い、「絵本」「動画作成」「ポスター」「参加型企画」「リサイクル」などの取り組みを計画した。

【まとめ・表現】 10月～

動画やポスターによるゼロカーボンの啓発・ペットボトルキャップを利用したリメイク講座・地元野菜の販売を行った。また、6月のアンケートで足りなかった若者の票を集めるため、「温暖化による影響で最も困ること」の追跡調査も行った。あわせて、私たちの啓発活動の効果を確かめるため、企画参加後にはゼロカーボンについての意識の変化もアンケート調査した。

II 探究活動の成果

- 参加型企画の中で実施したショート動画の視聴、ポスター、スライド発表による啓発活動により、参加した半数の人が、「危機感持った」と回答している。また、来てくれた人の9割以上が、「二酸化炭素を削減したい」「自分もゼロカーボンを意識して取り組もう」と回答したことから、参加型企画の啓発活動は効果的であった。
- 北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン推進課との連携や大学生との関わり、街頭アンケート、発表会までのプロセスを通し、より理解を深め、身近なこととしてとらえて意欲的に探究することができた。
- 対象を若年層に絞ることで、ねらいを明確化した上で、課題の解決に向けた探究活動への取り組みを進めることができた。

III 今後に向けて

- 探究のプロセスに沿ったスケジュールの随時の見直し
- 思考を整理するためのワークシートや生成AIの活用の充実
- 探究活動を充実させるための普通科教職員の指導方法の共通理解